

(特非) やんばる舎

やんばるの里山を救え！

～チョウの舞う里山から屋古集落再生へ～

イベントの
延べ参加者数 600人

イベント参加者
の満足度 90%

活動の全体目標
に対する達成度 90%



塩屋小学校全校チョウ観察

◆成果と工夫したポイント

●成果

- ・地域小学校の全児童がチョウの観察を行った。
- ・村長をはじめ地域住民、販売会議で協力頂いたリコー株式会社とともに、チョウの食草植え付けイベントを開催。
- ・「大宜味村生物多様性センター」を村と協働で設立。

●工夫

活動へ地域住民の皆さまに参加頂けるよう、大宜味村立塩屋小学校の児童たちにチョウの観察会を開催した。

課題

やんばるの環境を支える里山は、環境悪化、人口の減少により存続の危機にある。屋古集落は過疎化が進み、栽培される無農薬シークワーサーは、低い価格で取引されている。

目標

- ・無農薬栽培によるシークワーサーの価値が見直される。
- ・環境教育の必要性が教育現場に認知され、全校児童が屋古チョウ観察に参加する。
- ・無農薬シークワーサーの栽培や購入など、保全活動へ参加する人々が増える。

活動内容

- ・農薬不使用・使用地域の生息比較調査。
- ・現地視察と勉強会を2月12日、13日に行った。
- ・NPO法人ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議、環境脳神経学情報センターを10月14、16日に訪問。
- ・10月15日株式会社リコー本社ビル会議室において販売戦略会議を開催。
- ・屋古住民を対象に4回懇談会を開催。
- ・ホームページを作成。<http://www.ogimi-museum.org/yako/>

達成できなかったこと

販売先は見つかったものの、雇用を創出するだけのシークワーサー販路の確保には、まだ時間がかかること。

今後の展望

雇用を創出するだけのシークワーサー販路の確保。



チョウの舞う里づくり
記念植樹